

活動報告 1 プロジェクト研究・共同研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://kcua.repo.nii.ac.jp/records/341

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



音曲技法書（伝書）の総合的研究

研究代表者：藤田隆則

プロジェクト研究

共同研究員：朝原広基、安納真理子（東京工業大）、上野正章、恵阪悟（帝塚山大学）、大谷節子（成城大学）、大山範子、沖本幸子（青山学院大学）、近藤静乃、柴佳世乃（千葉大学）、柴田真希、藺田郁、高橋葉子、高桑いづみ（東京文化財研究所）、田草川みずき（千葉大学）、竹内直、田中敏文、玉村恭（上越教育大学）、板東愛子（武蔵野大学）、中尾薫（大阪大学）、中嶋謙昌（灘高校）、永原順子（大阪大学）、丹羽幸江、PELLECCHIA Diego（京都産業大学）、森田都紀（京都造形芸術大学）、横山太郎（跡見学園女子大学）、吉岡倫裕

開催趣旨：

日本伝統音楽の歴史的研究は、器楽を中心に進められてきた。声の音楽（ここでは「音曲」と呼ぶ）については研究が遅れている。それは、声の音楽が、音の長さ高さという要素を中心にして記述しにくいからである。音曲の技術書（伝書）の多くは、音の長さ高さの規則に言及するより前に、発音、発声法、呼吸法、装飾法、宇宙観など、いわゆる「音楽以外」の要素におおく言及する。したがって、言語学、文学、宗教学、音楽学、歴史学などの知を結集させなければ、音曲の技術書をまるごと理解することはできない。

本研究会は、仏教や神道などの宗教儀礼、能や平家などの中世芸能、義太夫節などの近世芸能における音曲技術書（伝書）研究を、主な研究対象とする。それぞれの種目を専門に研究してきた研究者が、種目をこえて集い、専門とする技術書を紹介しあうことによって、種目間の類似性と差異を了解しあうことが目的となる。たとえば、ユリやフリは、多くの種目で共通して用いられる技法名である。その技法は、それぞれの種目において、具体的にどのような技術をさし、どのような重要性や価値を担わされているのだろうか。

研究会は、全体会と部会にわけて開催する。全体会では、音曲伝書の内容紹介を中心とする。話題は、技術書だけではなく、記譜法や、現代における口頭での教授方法にもおよぶであろう。そして部会では、主として、能の謡の音曲伝書をいくつかとりあげて、ていねいに講読する。

〈2018年度の研究会〉

時間：13時30分—17時

場所：日本伝統音楽研究センター合同研究室（新研究棟 7 階）

4月20日（金）音曲技法書輪読

5月18日（金）音曲技法書輪読

6月1日（金）音曲技法書輪読

6月15日（金）音曲技法書輪読

7月6日（金）音曲技法書輪読

7月14日（土）周耘（ゲスト）「中国大陸仏教音楽研究の歴史と現状」、藤田隆則「大内典著『仏教の声の技』を読む

7月15日（日）ワークショップと講演：大八木正雄（ゲスト）「声明の回旋譜を書いて、唱えてみる」

7月16日（月）音曲技法書輪読

- 7月20日(金) 音曲技法書輪読
- 8月 3日(金) 音曲技法書輪読
- 9月 2日(日) 近藤静乃「講式の音楽構成法」、柴佳世乃「『如意輪講式』について」
- 9月 3日(月) (高橋葉子「能にとって地拍子とは何か」)(永原順子「儀礼と謡のかかわり—謡と酒・宴会」、田中敏文「能楽師のビジネスモデルについて」)
- 9月 4日(火) 台風のため中止
- 9月 7日(金) 音曲技法書輪読
- 10月 5日(金) 音曲技法書輪読
- 11月 2日(金) 音曲技法書輪読
- 11月16日(金) 音曲技法書輪読
- 12月 7日(金) 音曲技法書輪読
- 12月25日(火) 公開講座「学校教育に能を！—能〈羽衣〉」との合同開催、および公開講座の反省会
- 12月26日(水) 坂東愛子「現代のツツケ謡の実践方法をめぐって」
- 12月27日(木) 藤田隆則ほか「石橋山の復元にむけて」
- 1月18日(金) 音曲技法書輪読
- 1月19日(土) 幸若舞保存会調査(福岡県みやま市)
- 1月20日(日) 幸若舞保存会調査(福岡県みやま市)
- 2月 1日(金) 音曲技法書輪読
- 2月15日(金) 音曲技法書輪読
- 3月 1日(金) 「学校教育に能を！」(文化庁)との合同開催(東京：宝生能楽堂)
- 3月 2日(土) 「石橋山の復元にむけて」(その2)(東京：成城大学)
- 3月27日(水) 丹羽幸江「謡の旋律パターンと早歌の旋律パターン」
- 3月28日(木) 高橋葉子「唱歌に求められるもの」、玉村恭「地方における能・素人による能」
- 3月29日(金) 中尾薫「雅楽から能へ」上野正章「雅楽器の独習 その2～理論と実践」(伝音連続講座との合同開催)

儒教と文人の世界観に展開する「楽」思想の諸相研究

研究代表者：武内 恵美子

プロジェクト研究

共同研究員：明木茂夫(中京大学 教授)、遠藤徹(東京学芸大学、教授)、小林龍彦(前橋工科大学 名誉教授)、小島康敬(国際基督教大学 教授)、高橋博巳(金城学院大学 名誉教授)、平間充子(桐朋音学大学、兼任講師)、平木實(天理大学 元教授)、南谷美保(四天王寺大学、教授)、山寺美紀子(國學院大學北海道短期大学部、兼任講師)、渡辺信一郎(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 所長)、趙維平(上海音楽学院 教授)、唐権(華東師範大学外国語学院、助教授)、吉岡倫裕(京都市立芸術大学 客員研究員)

本研究は、平成25年度から4年間かけて行ってきた共同研究「近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ」の成果を踏まえ、更に展開させるものである。

儒教は古代中国に端を発し、東アジア全体に波及し多大な影響を及ぼした思想、宗教である。その中心的役割の一軸として「楽」思想があるが、楽思想は単に音楽の思想にとどまらず、政治、文学、歴史、数学、天文学と

関連し、また儒学を超えた、文人世界の形成にも大きく影響を及ぼした。

日本にもその影響は及び、古代から近世にかけて、研究・普及がなされてきた。また、江戸時代には、文人的概念が定着し、日本に於いても独自の世界観が成立、展開した。これら楽思想を通して展開した文化に共通する、普遍的な世界観を、様々な角度から見出し、東アジア世界との対比も含めた文化の諸相を多角的に見出すことを目的とする。

この種の研究は近年ようやく行われるようになってきたが、分野を超えた交流はなかなか実現できない。共同研究の形態で、思想史、文化史、音楽学、歴史学、数学史など、学際的に1つの話題を議論する場を提供し、それぞれの分野の認識を深めつつ、ジャンルを超えた文化の概念を探ることが本研究の意義であり特徴である。

〈2018年度の研究会〉

場所：日本伝統音楽研究センター合同1（新研究棟7階）

2018年8月25日（土）13：30～18：30

2018年8月26日（日）10：30～16：30

2019年1月5日（土）13：30～18：30

2019年1月6日（日）10：30～16：30

2019年3月22日（金）10：00～16：30（プレ公開講座、公開プロジェクト研究会）

2019年3月23日（土）10：30～17：00（第54回公開講座）

「豊後系浄瑠璃の史料と伝承—常磐津節を中心に—」

研究代表者：竹内有一

共同研究（2016年度より2018年度まで）

共同研究員：櫛田典子（常磐津協会正会員、邦楽演奏家）、小西志保（竹内研究室研究嘱託員、邦楽演奏家）、龍城千与枝（元京都市立芸術大学非常勤講師）、常岡亮（常磐津協会理事、邦楽演奏家）

豊後系浄瑠璃諸派のうち、流祖宮古路豊後掾の直系で現存最古とされる常磐津節を中心に、総合的な調査研究を進める。

課題（1）新出常磐津正本の書誌的調査・翻刻・歴史的考察、（2）他流との掛合ものの実践的研究、（3）稀曲・復曲に関わる予備的研究、（4）レコード音源の調査と考証

第1回 2018年5月30日（水）13時30分～20時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室

ミーティング：前年度の総括と今年度の計画（出席者：小西・竹内・常岡）

第2回 2018年6月27日（水）13時～20時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室

常磐津正本「雪嵐卯花籬」「百千鳥子日初恋」の読み合わせと考察（小西・竹内・常岡）

第3回 2018年7月30日（月）13時30分～20時、場所：日本伝統音楽研究センター805・601研究室

常磐津家元所蔵常磐津正本（整理番号2）の解体・清浄（櫛田・小西・竹内・常岡）

第4回 2018年7月31日（木）13時～19時、場所：日本伝統音楽研究センター805・601研究室

常磐津家元所蔵常磐津正本（整理番号2）の清浄と書誌的考察（櫛田・小西・竹内・常岡）

第5回 2018年8月28日（火）11時～20時、場所：日本伝統音楽研究センター805・601研究室

常磐津家元所蔵常磐津正本（整理番号2）の清浄、（整理番号3）の解体、書誌的考察（小西・竹内・常岡）

第6回 2018年8月29日（水）11時～20時、場所：日本伝統音楽研究センター805・601研究室

- 同上
- 第7回 2018年9月17日(月)10時～19時30分、場所：日本伝統音楽研究センター805・601研究室
常磐津家元所蔵常磐津正本(整理番号2・3)の清浄・撮影・虫損繕い(小西・竹内・常岡、宇野研究室)
- 第8回 2018年9月18日(火)10時～20時、場所：日本伝統音楽研究センター805・601研究室
同上
- 第9回 2018年12月2日(日)13時～18時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
復曲すべき作品の要件の考察と候補の選定(櫛田・小西・竹内・常岡)
- 第10回 2018年12月3日(月)13時～17時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
常磐津正本「片大和路籠閑扉」「四季詠所作の花」の読み合わせと考察(櫛田・小西・竹内・常岡)
- 第11回 2018年12月24日(月祝)13時30分～18時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
復曲すべき作品の要件の考察と候補の選定(小西・竹内・常岡、ゲストスピーカー：原政雄)
- 第12回 2018年12月25日(火)10時～18時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
常磐津正本「筒幹色水上」「帯文桂川水」の読み合わせと考察(櫛田・小西・竹内・常岡)
- 第13回 2019年2月9日(土)13時～18時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
常磐津正本「緑増常磐寿」「帯文桂川水」の復曲に向けた精査と考察(小西・竹内・常岡、ゲストスピーカー：原政雄)
- 第14回 2019年2月10日(土)11時～17時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
常磐津正本「緑増常磐寿」の復曲についての考察(櫛田・小西・竹内・常岡)
- 第15回 2019年2月11日(日)11時～16時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
同上
- 第16回 2019年2月18日(月)14時～17時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
常磐津正本「緑増常磐寿」「帯文桂川水」の復曲に向けた精査と考察(小西・竹内・常岡)
- 第17回 2019年2月19日(月)11時～16時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
同上
- 第18回 2019年3月8日(金)13時～18時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
常磐津正本「帯文桂川水」の復曲に向けた精査と考察(小西・竹内・常岡、ゲストスピーカー：原政雄)
- 第19回 2019年3月9日(土)13時～18時、場所：日本伝統音楽研究センター805研究室
常磐津正本「帯文桂川水」の復曲に向けた精査と考察(櫛田・小西・竹内・常岡)
- 第20回 2019年3月16日(金)13時～17時、場所：浜松市楽器博物館
日本の楽器およびそのルーツを学ぶ、楽器の展示方法に関する調査、嶋館長と質疑応答(櫛田・小西・竹内・常岡、ゲストスピーカー：村井陽平)
- 第21回 2019年3月17日(金)11時～15時、場所：浜松市楽器博物館
同上

■ 雅楽および関連芸能の歴史的音楽動作様式をさぐる ―多様な解釈の可能性―

研究代表者：田鍬智志

共同研究

共同研究員：今 由佳里(鹿児島大学教育学部准教授)、中尾 薫(大阪大学大学院文学研究科准教授)、平野 みゆ

き（金蘭千里高等学校中学校社会科教諭）、上野 正章（大阪大学招聘研究員）、増田 真結（京都教育大学講師）、Andrea GIOLAI（国際日本文化研究センター日本学術振興会研究員）

趣旨：雅楽において楽譜・舞譜は、古今それぞれの時代に撰述がなされ、少なからず伝存している。備忘的・簡易的記譜法で記されているそれら楽譜史料は、解釈如何によって、そこから様々な音楽・舞踊が立ち現れうるものである。当研究会では、メンバー夫々が対象とする音楽・芸能に対し（唯一の解釈に収斂させてしまうのではなく）さまざまなアプローチにより、さまざまな解釈を提示しあって、さまざまな再現・復興の可能性を追求していく。

■ 2018 年度研究会開催日

7月4・5日、8月20・30日、9月21日、10月5日、11月25・26・30日、12月25日、1月5・6・8・11・15・17・22日、2月13・14日、3月1・13・26・28・29・30日

■活動1 伝音セミナー第3回「雅楽の今昔（その3）—こんにちの古譜解読と創作—」の実施（7月5日）

未知の音楽への探求、それは未来と過去の二つの方向性がかんがえられる。未来にむけて探求する、それは、新しく創作することであり、一方の過去への探求は、昔の鳴り響いていた音楽を蘇らすこと、すなわち古い楽譜などの解読などがある。それら2つの潮流がほぼ同時に発生した1950～70年代ごろの日本の雅楽の世界を、音源と実演を交えて紹介・考察した。

講師：Andrea GIOLAI・田鍬 智志。

実演：武満徹作曲 Distance オーボエと笙 あるいはオーボエのための（1972）、泉 佳穂（oboe）・陳 宗彤（笙）

■活動2 CD『王朝時代の雅楽に寄す。—古楽譜の解読と解釈 その一例』の発行（7月31日）

昨年度、朗読アンサンブル京・Genjiとの舞台公演のために、平安中期の楽譜、新撰楽譜・琵琶諸調子譜や、経信卿自筆琵琶譜・三五要録・古譜律巻・仁智要録から数曲をえらび訳譜・演奏したが、取り上げた楽曲を改めてレコーディングし、新たに解説文をつけて研究会メンバー監修のもとCDとして上梓した。

企画・解説：田鍬 智志／監修：当研究会／発行：当センター／ミキシング・マスタリング：松本 康志／デザイン：田鍬智志・陳 宗彤

寄稿：Andrea GIOLAI *In and Out of Trouble: Gagaku and the Issue of Authenticity*（困難の「内」と「外」で—雅楽とその真実性を巡って—）／陳 宗彤「導聆 千年前雅楽輝煌時代の入口」／管 亭安「撥弦遙想千年雅楽之美」

演奏：でんおん管絃講（2017年度メンバー）伊藤 慶佑（龍笛）／管 亭安（琵琶）／陳 宗彤（笙）／田鍬 智志（箏）

曲目：輪臺（序輪臺・垣代音取・早輪臺）、青海波（初返・垣代音取・第二返）、劔気禪脱（破・禪脱）、竹林楽、西王楽（序・破）、海青楽、散吟打球楽、赤白桃李花（序・破全六帖）

■活動3 メンバーによる連続講座H「カラダで検証する雅楽研究その2」（3月29・30日）

メンバーそれぞれの研究の途中経過報告をコンサート付き連続講座の形式でおこなった。

レクチャー

- ① 田鍬 智志「掌中要録・続教訓抄から探る鎌倉期舞楽～《甘州》全五帖・入綾～」
- ② 田鍬 智志・（増田真結）「梁塵秘抄・催馬楽略譜などから探る平安末・鎌倉期の唐楽・催馬楽 その1～和琴の奏法～」
- ③ 中尾 薫「雅楽から能へ その2」
- ④ 上野 正章「雅楽器の独習 その2～理論と実践～」
- ⑤ 平野 みゆき「《甘州》と《早甘州》の謎 その2～中世楽書の検討～」

コンサート（公開収録）

- ① 楽拍子と只拍子の《甘州》～類箏治要（箏）・三五要録（琵琶）・管眼集（龍笛）・古譜律卷（笙）・教訓抄（羯鼓・太鼓）による～
- ② 舞楽《甘州》全五帖&入綾舞臺手～舞（掌中要録）と上記楽器による～
- ③ 双調《鳥破・鳥急》平調《萬歳楽・甘州》～梁塵秘抄口伝集等に基づく推定創作（和琴）と仁智要録（箏）による～

演奏：でんおん管絃講（2018年度メンバー）伊藤 亜希子（龍笛）／伊藤 慶佑（琵琶）／池内 奏音（笙）／成瀬 はつみ（舞）／Ben BISOGNO（羯鼓）／陳 宗彤（太鼓）／中川 佳代子（箏・和琴）／江野 俊江（箏）／田 敏 智志（舞）

■活動4 その他 いざなぎ流神楽（高知県香美市）聞き取り調査と舞の講習（9月21日）

近現代の伝統音楽および民謡の変容と実践

研究代表者：齋藤 桂

共同研究

共同研究員：安納真理子（東京工業大学・准教授）、梶丸岳（京都大学・助教）、片岡リサ（大阪音楽大学・特任准教授／大阪大学・博士後期課程）、園田郁（日本伝統音楽研究センター）、竹内直（日本伝統音楽研究センター）、土田耕督（大阪大学・助教）、出口実紀（日本伝統音楽研究センター）、輪島裕介（大阪大学・准教授）

■趣旨

明治期以降から現代までの伝統音楽および民謡について、その変容と実践についての詳細を明らかにする。その中でも特に、新民謡や邦楽器を用いたポピュラー音楽演奏、現代邦楽、現代の民謡（民謡大会など）、複数ジャンルのコラボレーションや言語・文化圏を跨いだ活動等、近現代に特有の音楽実践に光を当てる。またそれらの音楽実践を文化史の中に位置づけることで、近現代の伝統音楽・民謡の文化的意義の解明を行う。

■2018年度研究会開催日

11月1日（於：日本伝統音楽研究センター、ゲスト：長門洋平、白井史人）、2月7日（於：日本伝統音楽研究センター、ゲスト：大久保真利子）、2月19日（於：大阪大学、ゲスト：ちんどん通信社、阿部万里江 ※大阪大学文学研究科音楽学研究室との共同開催）